

# 新学習指導要領における世界史授業

地歴・公民科 塚田 章裕

(要旨) 今次の学習指導要領世界史の改訂のポイントの一つとして、年表や地図などさまざまな資料を活用した学習の重視があげられる。それを踏まえて、本稿では地図を活用することと、その他の資料を活用し、発問を行うことによって歴史的思考力を培う授業案を提示することとした。

キーワード：新学習指導要領 世界史 地図 歴史的思考力

## 1 はじめに

今次の学習指導要領世界史の改訂のポイントの一つとして、年表や地図などさまざまな資料を活用した学習の重視があげられる。その結果世界史Bでは、内容の各大項目の中に時間軸や空間軸、資料の読解などにかかわる主題を設定して行う学習を設けることとなった。

各大項目において、時間軸、空間軸、資料と限定されることはいささか疑問が残るものの、このような改訂を受けて、どのような授業が展開できるか考えてみた。

## 2 教材および授業の手法について

地図の活用としては、帝国書院発行の『昭和9年版 復刻版地図帳』を選んだ。この地図は文字通り、昭和9年(1934年)の地図帳の復刻版である。生徒が普段利用している地図帳の形式で、1934年当時の日本や世界が描かれているので、日本の領土の拡大や、当時の領土がより印象付けられるのではないかと考えた。また、地図と資料の両方の要素を兼ね備えているとも考えられる。

もう一つ、資料の活用と授業の手法については、加藤陽子氏の『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』を参考にした。この本は、東京大学文学部教授の加藤陽子氏が栄光学園の歴史研究部を中心とした

生徒に対して行った日本近代史の講義録である。この本では、加藤氏が最新の研究成果に基づき、豊富な史料を用いて時折生徒に発問を投げかけ、本質的な歴史の問いに答えていく。新学習指導要領においても、科目の目標に、歴史的思考力を培うことが掲げられている。よって、この本の手法は高等学校の授業にも利用できるのではないかと思い、参考にした。

## 3 単元(小単元)について

なぜ、第一次世界大戦が終結してからわずか20年近くで、アジア・太平洋地域を含む世界戦争が勃発することになったのだろうか。その問いは、現在生きる我々にとって大きな意味を持つ。本単元では、ナチスの政権掌握と日本の中国侵略について学習した後、ドイツと日本において共通して見られる、国民がナチスや軍部を支持していく過程について考察させ、この大きな問いの答えの一部を導き出させたい。

#### 4 授業の試案

①小単元名 「世界戦争への道」(2時間)

②小単元の目標

ドイツと日本において共通して見られる、国民がナチスや軍部を支持していく要因について考察できる。

【思考・判断】

③授業の展開

##### 第1限 ナチスの政権掌握

	教師の指示・発問・説明	資料	生徒に期待する認識・知識	評価規準 (観点・評価方法)
導入	<p>「みんなはナチスについてどんなイメージを持っているのかな？」</p> <p>・暴力的なイメージがあるナチスだが、暴力的に政権を奪取したわけではないと説明</p>		<p>「アウシュヴィッツでのユダヤ人虐殺などから暴力的」</p>	
展開	<p>・ナチスの成立について説明</p> <p>「ナチスの正式名称って何か不思議に思わない？」</p> <p>・議会政治の崩壊について説明</p> <p>・ナチスの伸張について説明</p> <p>「なぜ、ナチスはこんなに急速に勢力を拡大したのだろうか？」</p> <p>・ナチスの内政について説明</p> <p>「言論統制などの独裁政治を行ったナチス政権は、なぜ維持できたのだろうか？」</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<p>「ファシズムと社会主義が結び付かない」</p> <p>・ナチスの正式名称から、ナチスが労働者の支持も取り込もうとしていることを理解する。</p> <p>・議会政治の混乱がナチス台頭の背景の一つであることを理解する。</p> <p>・恐慌による社会不安が中産階級などのナチス支持につながったことを理解する。</p> <p>・ナチスの社会政策が、ナチスの高い支持率につながることを理解する。</p>	
	(次時の予告)			

資料 ①『歴史風景館 世界史のミュージアム』(東京法令出版)(以下、『図説』と省略) p.239

②木村靖二ほか『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社) p.325

③『図説』 p.239

④木村靖二ほか『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社) p.324

⑤山本秀行『世界史リブレット49 ナチズムの時代』(山川出版社) p.51

第2限 日本の中国侵略

	教師の指示・発問・説明	資料	生徒に期待する認識・知識	評価規準 (観点・評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変の2カ月前に東大生に行ったアンケートの結果を紹介する。</li> </ul>		<p>「満蒙」のための武力行使について、88%の東大生が正当であると答えた結果について、意外に思う。</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大陸進出の背景について説明</li> </ul> <p>「このような問題をどうしたら解決できるだろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変の経緯について説明</li> </ul> <p>「なぜ、あっという間に日本は満州を占領できたのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リットン調査団の派遣から満州国成立の経緯について説明</li> <li>・1934年当時の地図を見せる</li> </ul> <p>「満州国はどのように示されているかわかりますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連盟脱退から塘沽停戦協定について説明</li> <li>・軍部の台頭の背景</li> </ul> <p>「この間、軍部が台頭していくわけだけども、民衆は軍部をどのようにみていたのだろうか？」</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の経済的混乱・社会不安について理解する。</li> <li>・国内の諸問題を軍事的大陸進出によって解決しようとしたことを理解する。</li> <li>・満州事変は関東軍の謀略によって行われたことを理解する。</li> <li>・蒋介石は共産党討伐を優先し、日本には抵抗しなかったことを理解する。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本はあくまで「満州国」を独立国家だと主張していることを理解する。</li> <li>・国際連盟脱退までの過程を理解する。</li> </ul> <p>② 民衆は、生活を改善してくれる陸軍に期待していたことを理解する。</p>		
まとめ	<p>「なぜドイツや日本の国民がナチスや日本の軍部を支持していったのか、ドイツと日本において共通して見られる要因をワークシートに記入してみよう。」</p>		<p>さまざまな社会不安の中で、既成の政党に代わって生活を改善してくれる、ナチスや軍部を民衆は支持していった。</p>	<p>ドイツと日本において共通して見られる、国民がナチスや軍部を支持していく要因について考察できる。 【思考・判断】(ワークシート)</p>

資料 ①『昭和9年版 復刻版地図帳 帝国之部』(帝国書院 2006年) p.2,3,8

『昭和9年版 復刻版地図帳 世界之部』(帝国書院 2006年) p.55

②いわゆる「陸軍パンフレット」

#### 4 おわりに

私は、普段の授業では、受験を意識して通史をしっかり教えたいと思い、知識伝達型の授業を行っている。そのため、中には関心を示さない生徒もいる(特に必修の世界史Aの授業)。そして逆に、世界史の本質的な質問をしてくる生徒もいる。

受験と生徒の要求とのジレンマにかられながら、日々授業を行っているわけだが、そのような状況を踏まえて今回の授業案を作成してみた。他の先生方からみると、たいしたものではないかもしれないが、自分の意識改革の一つとして作成してみた。

#### 〔参考文献〕

- ・田尻信壹「新学習指導要領世界史の構想(3)」(『中等教育資料 平成21年3月号』ぎょうせい 2009年)
- ・田尻信壹ほか「高等学校学習指導要領の改訂と各教科等の展望 地理歴史」(『中等教育資料 平成21年5月号』ぎょうせい 2009年)
- ・全国社会科教育学会『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』(明治図書 2007年)
- ・加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(朝日新聞社 2009年)
- ・『昭和9年版 復刻版地図帳』(帝国書院 2006年)